

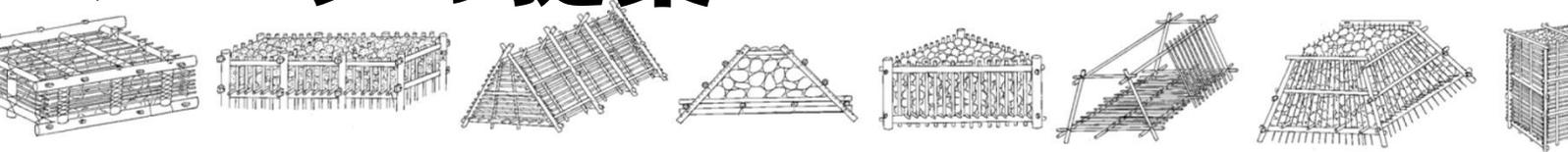
Traditional river construction

河川伝統工法



Designing new park model

パークの提案



Workshop at Shonai-ryokuchi

ワークショップ発表会・展示会

日本人は古来から山の木を使って川の整備をしてきました。間伐材で「牛」のような三角錐の枠を組んで激流を制したり、広葉樹の枝を束ねた「粗朶(そだ)」を敷き詰めて堤防を強化するなどしていたのです。これらを「河川伝統工法」と呼び、伊勢湾台風のところもこの地域で盛んに行われていました。山の手入れをすることが環境整備にもなり、山崩れや洪水をくい止める防災にもなります。

これらの工法を現代的に活用し、かつショールームのように展示する「河川伝統工法パーク」のデザインを提案するワークショップの発表会と展示会を開きます。愛知県立芸術大学、名古屋工業大学、名城大学のデザイン系研究室が提案する環境と防災、山と川、上流と下流の新しい関係の形をぜひご覧ください。

「河川伝統工法パークの提案」ワークショップ **参加無料**

発表会 (学生によるプレゼンテーション) **2012年9月20日(木) 13:30~14:30**

展示会 (模型、パネル展示) **2012年9月21日(金) 10:00~15:00**

会場・名古屋建設業協会 1階会議室 (名古屋市東区泉 1-13-34)



主催・特定非営利活動法人レスキューストックヤード
<http://rsy-nagoya.com> (担当スタッフ・関口)

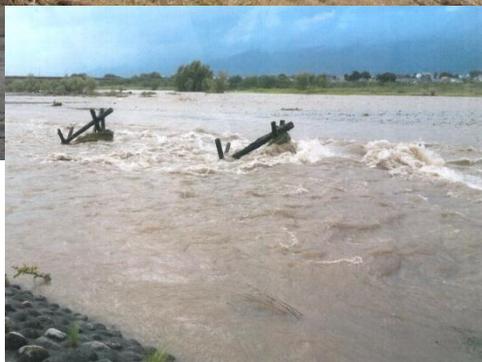
協力・国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、愛知県、名古屋市、近自然工法研究会、
愛知・川の会、井納木材 ※平成23年度あいちモリコロ基金助成事業

「河川伝統工法パークの提案」プロジェクト

日本古来の治水＝防災の知恵である「河川伝統工法」の現代的活用法を見いだそうと、2011年11月から「あいちモリコロ基金」の助成を受けておこなっているレスキューストックヤードのプロジェクト。「聖牛」「粗朶沈床工」などの実例を山梨県や静岡県、岐阜県で調査。12年7月28日には名古屋市内のこども向け防災イベントで実物大の「聖牛」を再現。合わせて県内3大学のデザイン系研究室の協力を得て、こうした技術を取り入れた新しい「公園」を、子どもたちの意見を聞きながらデザインするワークショップを開きました。その成果を10月のプロジェクト終了後、自治体や河川関係者らに示して事業化を検討する予定です。

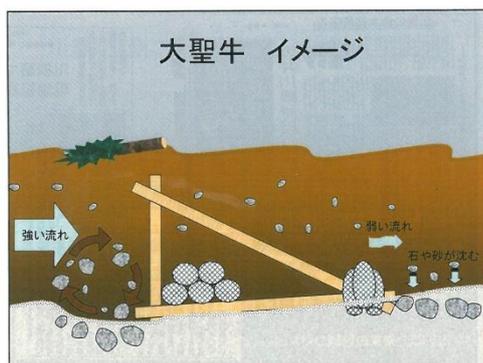
【聖牛とは】

間伐材や竹、石などの素材を三角錐状に組み立て、川の中に設置する構造物。川の勢いを弱め、洪水時に堤防護岸が崩れるのを防ぐ役割があります。木組みの部分が牛の角のように見え、川の守り神のような意味から「聖牛」の名がついたと言われます。昔ながらの川づくりである「河川伝統工法」の一種で、山梨県や静岡県などでは現在も治水に役立てられています。東海地方でも戦前までは多く見られましたが、現在は庄内川上流の土岐川にモニュメント的に残されている程度です。



山梨県甲斐市の釜無川に現存する「聖牛」(2012年1月撮影)。2011年の台風による増水時には、護岸を守る効果を発揮した(甲斐市提供)

聖牛のイメージ図(静岡県提供)。増水時は水面下で水の流れを受け止め、勢いを弱める機能がある



岐阜県の土岐川(庄内川上流)に残る聖牛。9年前にモニュメント的に設置され、今はかなり傷みが激しい

ワークショップ@こども防災イベント

河川伝統工法の技術を継承し、後世に残す「公園」をデザインできないか——この課題を愛知県内3大学のデザイン系研究室に投げ掛けました。

敷地は 2011 年に上流部で氾濫が起こった庄内川に隣接する庄内緑地公園の一部を想定。遊水地であるこの公園には、堤防を低くして、増水時に川の水を引き込む「越流堤」があります。これを含めた 300m 四方ほどの敷地を新たな「河川伝統工法パーク」としてイメージし、その模型をつくってもらうことにしました。



庄内緑地案内図

庄内緑地は、庄内川の小田井遊水地を利用した公園で、「水と緑と太陽」をテーマに、野趣あふれる総合公園として整備を進めてきました。現在、計画区域44.17haのうち約40haの整備が完了しています。



ただし、公園で遊ぶのは子どもたち。せっかく公園のデザインをするのなら、子どもたちの意見を直接聞いて反映させてもらおうと、7月 28 日、RSY として3年ぶりとなる子ども向け防災イベントを開き、そのブースの一つにワークショップの場を設けました。

各研究室の学生たちは、未完成の土台や部品を公園に持ち込み、イベント参加者の子どもたちに意見を聞いたり、部品を組み立ててもらったりしながら、最終的な模型を仕上げました。会場内には岐阜の間伐材などを用いた聖牛や粗朶沈床を再現。実際の伝統工法を見ながら、それを活用した公園の模型をつくるというユニークな場となりました。



【参加大学研究室】

愛知県立芸術大学・水津功研究室
名古屋工業大学・伊藤孝紀研究室
名城大学・谷田真研究室